

## 1 戸田家住宅主屋（とだけじゅうたくおもや）

(1) 所在地 新見市上熊谷（かみくまたに）

(2) 所有者 個人

(3) 概要 中世山城の麓に位置し、長大な石垣を構えた旧家の主屋。つし二階建、入母屋（いりもや）造平入（ひらいり）棧瓦（さんがわら）葺、二階壁は海鼠（なまこ）壁として虫籠（むしこ）窓を開ける。内部は西を土間、東に六室を配し、南東隅を主座敷として庭に臨む。式台（しきだい）を備え、太い梁組等に庄屋らしさを留めた豪壮な主屋。

建築年代は、鬼瓦銘の天明6（1786）年による。戸田家は寛永から庄屋を務め、元禄に名字帯刀が許された旧家。大正5年頃に式台や床の間等の改修を経ている。

(4) 登録基準

一 国土の歴史的景観に寄与しているもの



位置図

(写真)

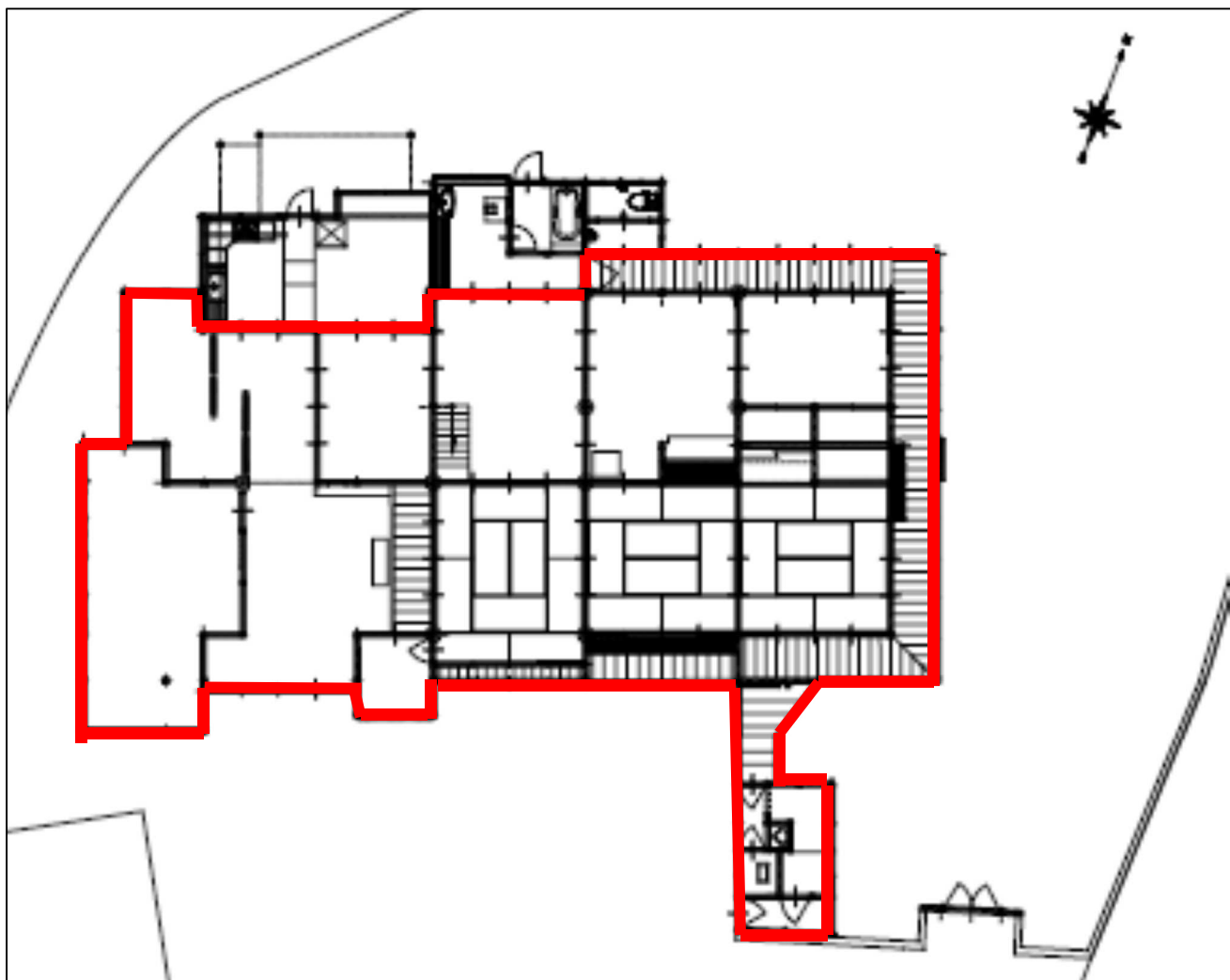


戸田家住宅主屋外観



戸田家住宅主屋内部状況

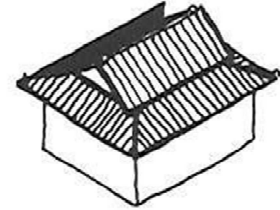
(平面図)



朱線で囲まれた部分が登録される建物の範囲

## 【用語解説】

- つし二階建：ずし二階ともいう。天井の低い2階のこと。
- 入母屋造（いりもやづく）り：寄棟造の屋根上部に切妻（きりづま）の小屋根を合わせたような形状の屋根の造り。



- 平入（ひらい）り：屋根の棟と直角な方向に入り口のあること。
- 棧瓦葺（さんがわらぶ）き：棧瓦（横断面が波型の瓦。本瓦に比べて経済的である）で葺いた屋根のこと。
- 海鼠（なまこ）壁：平瓦を貼り付け、大きな目地（めじ・継ぎ目）を漆喰で蒲鉾形に高く盛り上げてつくった壁。
- 虫籠（むしこ）窓：漆喰で塗られた格子を付けた2階の窓のこと。
- 式台（しきだい）：客の送迎に際して礼をするために玄関先に設けた板敷きのこと。